

## 令和3年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名 三木市立自由が丘東小学校

## 1 学校教育目標

## 心豊かに 健やかに 夢に向かって学び続ける子の育成 ~考える子・思いやる子・やりぬく子~

## 2 本年度の重点目標

- 1 保護者や地域の願いを大切にした信頼される安全で安心な学校づくり  
2 互いに認め合い、助け合いながら共に伸びようとする仲間づくり  
3 基礎的・基本的な力の定着、考え合い話し合う学びの場づくり

- 4 児童一人一人に寄り添い、個々の課題に応じたきめ細かな指導の場づくり  
5 教職員の同僚性を高め、協働的に取り組む職場づくり

## 3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	○ 学習習慣ならびに基礎基本の定着のための楽しくわかりやすい学びの場づくり ○ 月ごとに言語活動の目標を立て、考え方、話し合いのできる学びの場づくり ○ タブレット端末等を活用し、理解や思考を深めるための学びの場づくり	○ 「ぐんぐんタイム」では算数科、「月ごとの言語活動目標」では国語科において、基礎基本の定着について一定の効果が見られた。また、基礎基本も大切にしつつ、基礎基本の力を活用していくことが課題である。  ○ タブレット活用について教員間で情報共有、研修に努めた。基礎基本の定着に向けての活用が主となっている。授業の中で協同学習の場面で使用するなど、活用を広げていくことが課題である。	B	○ 基礎基本の力を活用する力を育むために、授業改善について検討する。具体的には、学習のめあてをより子どもたちが必要を感じられるような展開にしたり、既習内容をつなげて思考することができるようになります。より多様な考えについて議論する場の設定もしていく。  ○ 授業の中にタブレット学習をより多く位置づける。そこでは特に、コラボノート等を用いて意見交流する場を設定するといった協同学習での活用をめざす。
	○ 学校行事の工夫 ○ 児童会活動の工夫 ○ 体験学習の推進	○ 内容や練習時間の設定を工夫して運動会や音楽会の代替行事を実施し、充実感や仕事を通じた成長を感じとらせることができた。 ○ 自然学校・修学旅行・秋の校外学習・持久走記録会などを実施した。 ○ 児童会が中心となり、学校行事の計画進行を行った。できることできなことを取捨選択しながら臨機応変に取り組んだ。 ○ コロナ禍においても可能な範囲で、環境体験学習や三木のふるさと学習等の充実に努めた。	A	○ 感染症対策を講じながら、児童の意欲や満足感を向上させる行事を実施する。 ○ 学びの深まる校外学習等を実施する。 ○ 今年度の活動を踏まえて年間計画を立て、見通しをもって活動でできるようにする。 ○ コロナ禍における可能な環境体験学習、ふるさと学習のさらなる充実を図る。
特別活動	○ 道徳・人権教育	○ 年度当初に立てた指導計画を基に、計画的に学習に取り組んだ。  ○ 仲間づくりをテーマに夏季に研修会を行って研修に努め、学級経営案を基にした温かい学級づくりを行った。 ○ 通信を使った親子人権学習に取り組んだり、保護者にもオンデマンド配信した人権講演会を実施したりして、地域や家庭にも人権意識の向上に努め新型コロナウイルス感染に関わる差別や偏見をなくす指導・取組を行った。	A	○ 授業力向上のため、さらなる研究と昨今の課題を反映した心に響く授業づくりを行う。 ○ 児童同士のトラブルや問題を解決するための、多くの目での児童の見守り、児童と向き合う時間の確保をする。 ○ 全ての教育活動の根幹に人権を守る視点を捉え、差別を絶対に許さないメッセージを伝え続けていく。 ○ 研修を計画的に組み込み、教師自身の人権意識の確立を図る。
	○ 支援の必要な児童の情報共有 ○ 支援を要する児童の理解と支援の充実 ○ 家庭や関係機関との連携	○ 特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、個別の教育指導計画を基にした児童の手立てについて共通理解する機会を設けた。 ○ 必要に応じてケース会議を設けたり、家庭と関係機関(教育相談・通級指導等)をつなぐような働きかけを行ったりした。 ○ 関係機関・教師間の連携をもとに、児童に合わせた手だての検討や実践に努め、インクルーシブ教育システムの構築に努めた。	B	○ 必要に応じたケース会議を基に、児童に応じた支援方法と環境づくりの検討を継続して行う。 ○ 関係機関との連携、教師間の連携をもとにした、インクルーシブ教育システムの構築を継続して行う。
	○ 基本的生活習慣の確立 ○ いじめ・不登校に関する取組の充実 ○ 児童の内面理解推進のための取組	○ 毎月の生活目標に「あいさつ」の文言を取り入れ、教職員が進んであいさつを行い、児童のあいさつへの意識を高めた。 ○ 日頃の生活指導(あいさつ・ろうかを走らない・下校態度等)について教職員間の共通理解を図った。 ○ 落ち着かない様子の児童に関わって、ケース会議を実施し、家庭と学校、学校内の密な連携をとることで、児童を支援した。 ○ 心のアンケートやカウンセリングにより児童の内面理解に努めた。	B	○ 「あいさつ」の励行については、教師が子どもの手本となるよう率先垂範および今後も活動の工夫を続ける。 ○ 地域の方へのあいさつを増やすことを今後の課題とし、教職員間で共通理解し、指導を続けていく。 ○ いじめ・不登校ゼロに向けて、アンケートやカウンセリングの実施、ケース会議等、取組を継続する。 ○ 児童の内面理解のための教職員間の密な連携を行う。
保健・安全 防災教育	○ 心身の健康に関する意識の向上 ○ 学校施設点椰・交通安全指導の徹底 ○ 防災教育の推進 ○ 学校生活全般における感染症対策への取組	○ 本校の健康課題である姿勢改善のため、昨年より腰骨タイムを導入した。  ○ 感染状況に照らし合わせ、学校生活を安心して送るために作成した「新しい生活様式」自由東小マニュアルに準じて指導した。例えば、掃除は「感染が拡がっている時期はリスクを下げるため、床に触れない」など。また行事ごとに感染症対策を一番に検討し対応した。  ○ 安全面では毎月定期的な施設の安全点椰を行った。 ○ 三木市防災マニュアルを確認しながら避難訓練を行った。	A	○ 学級指導やほけんより、委員会活動など工夫しながら感染症対策の徹底を呼びかける。 ○ 腰骨タイムで気持ちをきり替え、よい姿勢で授業に臨む習慣を継続する。体力づくりのため外遊びを啓発する声かけや体育委員会からの活動を継続する。児童の健康状態について全職員が共通理解をするよう努める。  ○ 定期的な安全点椰を行い、異常個所については即対処する。 ○ 様々な想定で避難訓練を実施し、教職員の連携の徹底を図る。
	○ 新学習指導要領を踏まえた授業展開の探求 ○ 外部研修の積極的受講(オンライン等)	○ コロナ禍だったので全体会や講師を招いた研修会等は実施を控えたが、一人一研究授業は実施した。事前研は単元全体と主に本時案の検討を行った。 ○ 各委員会の中で、指導力やタブレット活用法等のミニ研修を行った。 ○ 各担当が受けた研修内容を、教職員で共有することができます。オンラインによる専門研修講座を多分野にわたって受講したりして、研修を積むことができた。 ○ タブレットや電子黒板などICTを活用した効果的な授業展開や指導の研究が不十分であった。	B	○ 新型コロナウイルスの感染状況を見ながらになるが、一人一研究授業は行う方向で取り組む。講師招聘も状況を見ながら行う。  ○ 今年度のように、事前研、事後研では精査された視点をもって行っていく。  ○ タブレットを使うことで得られる教育的效果を検証しながら、積極的に活用する。
	○ 家庭・地域との連携強化 ○ 学校からの情報発信・オンライン交流ならびに家庭・地域からの声を大切にする開かれた学校づくり	○ 毎月、学校通信、学年通信等を保護者の方に向け発行した。 ○ 新型コロナウイルス感染防止の観点からオープンスクールの形態をくふうし実施した(オンライン講習＆学級講談会)。運動会、音楽会については規模を縮小した形で開催し、子どもたちの活動の様子を動画配信したり、人数を制限して保護者参考可とするなどした。 ○ 多様なPTA活動が企画、推進された(東っ子オリンピックの動画撮影及び配信等)。感染状況や天候により実施できないものもあった(芸術鑑賞会、どんぐ集会等)。	A	○ 保護者への連絡手段として「すぐーる」の利用を推進する。 ○ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、保護者や地域の方、児童にとって魅力があり励みとなるオープンスクール及び学校行事の開催を目指す。  ○ より有益な情報提供となるための(個人情報の取扱いに注意した)「学校ホームページ」の随時更新、積極的な情報発信に努める。

## 4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

【自己評価方法は適切である】  
23の評価項目と28の取組(達成)の状況、さらに学校独自の43項目にわたる具体的な評価内容ならびに数値目標等達成の自安が適切に設定され、評価されている。児童・保護者・教職員アンケートの実施による評価結果や具体的な取組・実施回数もあげられており、自己評価方法は適切である。

## 5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
【評価AIにすべきである】 児童アンケートで「学校での学習は、楽しく分かりやすいですか」との質問で肯定的評価が92%であり、3年前に比べると5ポイント上昇しており、学習指導の取組が評価できる。学力は、一朝一夕に向上するものではなく、このような地道で継続した取組が必要であり、教職員の共通理解のもと、自信を持って現在の指導を継続されたい。また、児童一人一台与えられたタブレットを授業ならびに家庭学習で有効に活用できるよう研究、実践を進められたい。
【評価AIは適切である】 コロナ禍の中ではあったが、児童会と教職員が一体となって感染対策を施し開催した運動会(東っ子オリンピック)や音楽会は、児童にとって生涯忘れるこのない貴重な体験となつたに違いない。その結果、保護者アンケートで「お子さんは、学校行事や学校での様々な活動を通して成長している感じられますか」との保護者アンケートで99.6%の肯定的評価を得ている。また、また、ふるさと三木の歴史学習や菊づくり等を通じて、郷土愛や感謝の心を育成している。引き続き達成感、成就感を味わえる場面を意図的計
【評価AIは適切である】 「特別の教科 道徳」は、年間計画に沿って計画的に実施、評価されている。児童アンケートにおける道徳教育・人権教育の全5つの質問項目で、昨年度に対して肯定的評価が4項目で上昇し、特に「やって良いこと、してはいけないことを考えて行動していますか」「みんなと仲良くしようとしていますか」が3ポイント以上も増加している。今年度は、コロナ禍で道徳にかかる全休研修が実施できなかつたようだが、グループ授業研修研修と通じて、教員間の相互研修を深め、授業力向上に努められており評価できる。
【評価AIにすべきである】 特別支援委員会が定期的に開催され、支援の必要な児童にかかる情報共有等が密に行われている。特に運動会(東っ子オリンピック)や音楽会で支援を要する児童に対して学級、学年の児童、教職員が励まし、応援する姿や支援を要する児童が生き生きと活動する姿が多くみられ、学校全体の日々の取組が評価できる。保護者と教職員のみならず、関係機関との連携が大切なので、ケース会議や小中連絡会等できめ細かな情報共有に引き続き努められたい。
【評価AIにすべきである】 児童アンケートで「学校が楽しいですか」との質問に対して、肯定的評価が毎年上昇し、3年前に比べ7ポイント以上増加しているのが非常に評価できる。コロナ禍での学校生活で何かと不便を感じる中であって、児童同士の人間関係が良好であり、教職員の日々に取組の成果が大きな要因であると思われる。今後も教職員全体で児童一人一人の把握・分析に努め、適切に対応されたい。
【評価AIは適切である】 本校の健康課題である姿勢改善のための腰骨タイムが昨年度より導入されたが、継続して実践されたい。 児童、教職員が学校生活を安心して送るために、新型コロナ感染症対策として、「新しい生活様式」自由が丘東小マニュアルに準じ、実践されたことは評価できる。 引き続き、PTAと連携して地域総ぐるみで子どもを守る活動を啓発されたい。
【評価AIにすべきである】 児童アンケートで「先生は、話しやすく相談しやすいですか」の質問に対して肯定的評価が毎年上昇し、4年前と比較すると9ポイントも増加していることは、特筆すべきである。 新型コロナウイルスの影響がある中でも一人一研究授業が実践され、タブレット端末研修、授業づくり研修、振り返り研修も行われている。今後も継続して実施されたい。
【評価AIは適切である】 オンラインによるオープンスクールや児童の活動を動画配信するなど、工夫がなされている。また、ホームページがよく更新され、情報発信に努められ、コロナ禍で訪れることができない保護者や地域住民にとって学校の活動のようすが良くわかり、評価できる。また、PTAによるどんぐ等が行われ、連携がなされている。引き続きPTA・地域とともに歩む教育活動に取り組まれたい。